



未来を切り拓く古典教材：和本・くずし字でこんな授業ができる

著者	同志社大学古典教材開発研究センター，山田 和人，加藤 直志，加藤 弓枝，三宅 宏幸，仲島 ひとみ，有田 祐輔，森木 三穂，江口 啓子，佐々木 孝浩，近江 弥穂子，飯倉 洋一，加藤 十握，永田 郁子，岩崎 彩香，高須 奈都子，永吉 寛行，松本 文子，日比野 由佳
ページ	1-205
発行年	2023-03-26
権利	文学通信
URL	http://doi.org/10.14988/00029482

参考文献一覧

第一部 入門編

STEP1 古典への誘い方

- 本場に必要なのかと言わせない古典（仲島ひとみ）
 - ※ 勝又基編『古典は本場に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた』（文学通信 二〇一九年）
 - ※ 長谷川凜・丹野健・内田花・田川美枝・中村海人・神山結衣・小林未来・牧野かれん・仲島ひとみ編『高校に古典は本場に必要なのか 高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ』（文学通信 二〇二一年）
 - ※ Deci, E. L., & Ryan, R. M. (2008). Self-determination theory: A macrotheory of human motivation, development, and health. *Canadian Psychology/Psychologie canadienne*, 49(3), 182-185.
- イメージで現代とつながる古典（江口啓子）
 - ※ 林晃平『浦島伝説の研究』（おっぴん、二〇〇一年）、「浦島伝説の展開」（おっぴん、二〇一八年）
 - ※ 勝保隆「御伽草子『酒吞童子』の一挿絵と本

文について—酒吞童子登場の場面の変遷をめぐって—」（『愛文』27、一九九二年一月）、「御伽草子『酒吞童子』の一場面における二系統成立に関する考察」（『静大国文』36、一九九二年四月）

STEP2 和本への誘い方

- 和本のポテンシャル——教材としての古典籍利用の可能性（佐々木孝浩）
 - ※ 藤井隆『日本古典書誌学総説』（和泉書院、一九九一年）
 - ※ 中野三敏『書誌学談義 江戸の板本』（岩波書店、一九九五年）
 - ※ 井上宗雄他『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、一九九九年）
 - ※ 川瀬一馬・岡崎久司『書誌学入門』（雄松堂出版、二〇〇一年）
 - ※ 山本信吉『古典籍が語る—書物の文化史』（八木書店、二〇〇四年）
 - ※ 柳筈節男『宮内庁書陵部書庫涉獵—書写と装丁』（おっぴん、二〇〇六年）
 - ※ 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版、二〇〇年）
 - ※ 中野三敏『和本のすすめ—江戸を読み解くために』（岩波新書、二〇一一年）
 - ※ 大沼晴暉『図書大概』（汲古書院、二〇二二年）
 - ※ 佐々木孝浩『日本古典書誌学論』（笠間書院、

第二部 教材編

- 二〇一六年）
 - ※ 藤本幸夫編『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』（勉誠出版、二〇二二年）
- ※ 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み—日本近世文学会による出前授業—」（名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要）61、二〇一六年二月）
- ※ 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（2）—江戸時代の「さるかに合戦」を読む—」（名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要）62、二〇一八年三月）
- ※ 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（4）—教科書教材としての『百人一首』から『敬歌道化百人一首』へ—」（名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要）64、二〇一九年二月）
- ※ 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（5）—江戸時代の『桃太郎』を読む—補遺—」（名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要）65、二〇二一年一月）
- ※ 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（6）—オンライン授業で学ぶ『伊勢物語』から『仁勢物語』へ—」（名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要）66、二〇二三年一月）